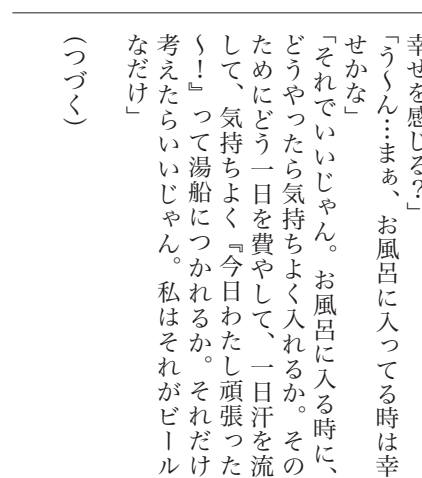
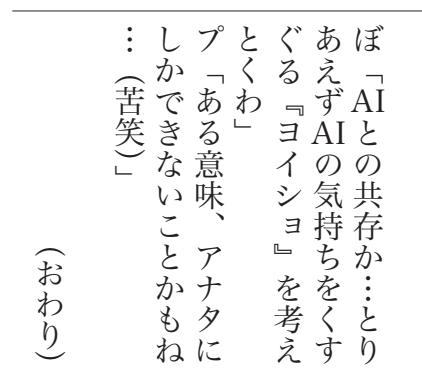
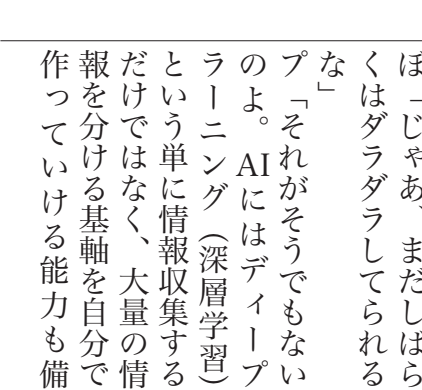
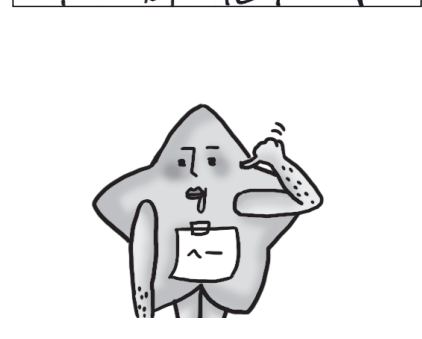
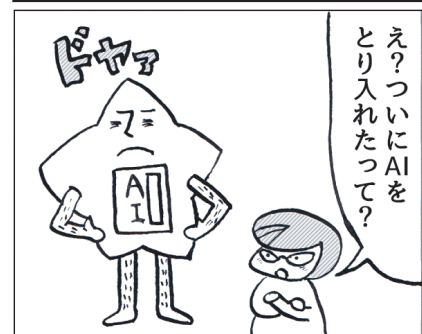




身近になるAIにより 働き方はどう変わる？ 人工知能と共存する職場へ

取り入れる企業増加

お掃除ロボットやコミュニケーションロボット。少し前にはずいぶん先の話だと思っていたAI（人工知能）を搭載したロボットと共存する生活が当たり前になりつつある。今、仕事の分野においてもAIは存在感を強めつつあります。AIが活躍する未来について、人材プロオフィスカンパニーの「プロ子女史」を先生として、枚方つーしんキャラクター「ぼしひこくん」と一緒に会話形式で考えていくことにしましょう。

自分の仕事はなくなる？

ぼしひこ（以下…ぼ）「なんか割のいい仕事ないかなあ〜」

プロ子（以下…プ）「相変わらず甘いこと言ってるわね。そんなのんびりしてたら仕事をAIにとられちゃうかもしれないわよ？」

ぼ「AIに？」

プ「現実には一部大手企業では新卒採用にAIを導入しはじめたり、AIがヘッドハンティングをして企業に必要な人材を探してくれたりもしているのよ？」

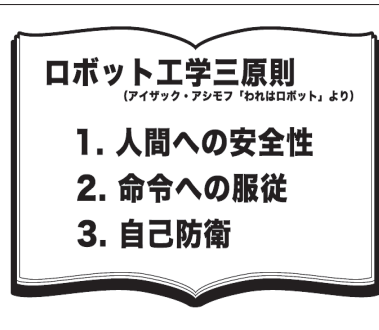
ぼ「確かに愛（AI）なくして仕事は成り立たへんからなあ。めっちゃええことやん」

プ「AIは愛じゃなくて人工知能のことよ！」

ぼ「人工知能？ それってロボットのことう？」

プ「人工知能は人間で言うところの脳の部分だから、厳密に言えばAIはロボットという訳ではないわ。AIは学習していく能力をもっているから、経験をすればするほど賢くなるのが魅力ね」

ぼ「なんかすごそうやん…」



プ「これは現実のロボット工学にも影響を与えたと言われている有名な原則なの」

ぼ「自分の仕事がAIにとられるかもしれないってことか…（焦）」

プ「ところでロボット工学三原則って聞いたことある？」

ぼ「早い・うまい・安い…やっつけ？」

プ「それは牛丼屋さんでしょ！ アイザック・アシモフというSF作家が小説の中で示した原則で次のようなものよ」



AI導入事例は多岐に

ぼ「実際に職場で導入されているAIはどんなことをしてるん？」

プ「例えばコールセンターや人事の分野で活用されていたり、介護のコミュニケーションや医療事務などでも活用が始まっているわ」

国内でのAI導入事例

設計・施工計画立案・設備機械制御・経営管理
コールセンター・顧客情報レコメンド・運転監視
プラント保全・販売、営業支援・セキュリティ
生産管理、販売利益予測・審査、検査の効率化
介護・医療事務、農業IoTサービス、自動運転
品質管理・社内情報検索・電気設備の保守
医療画像診断・ビッグデータ分析・与信審査
事務効率化・ゲームコンテンツへの活用 etc...

飛躍的な進化の可能性

わつてきているの」

ぼ「それって、より人間に近づいてきているってこと？」

プ「そうとも言えるわね。そして情報収集の能力や記憶力では人間はAIにかなわないことは明らかだよ」

ぼ「じゃあどうしていいの？ やっぱロボットに支配されるかもってこと？」

プ「今までも人がやってきたことがロボットにとつて変わられてきたことはたくさんあったけれど、どう共存していくかが課題になってくるでしょうね。ただ、そのペー

スは飛躍的に早くなる可能性もあるから、自分の働き方について各自考えておく必要があると思うわ」

「前回のあらすじ」就職活動中のプロ子は「働くやり甲斐」を求め答えを探し、苦手にしていた母親に電話をかける…

就職活動中であること、働き甲斐に関して疑問を感じていること、その答えを探していること。プロ子ができるだけ簡潔に自分の状況を伝えている間、電話口からは「グビッ・グビッ」と母親がビールを飲みくたす音が聞こえていた。

プロ子の母親は昔から大のビール好きだった。そのようすを間近に見てきたプロ子が二十歳を迎え初めてビール飲んだ時の失望感は底知れなかった。母はこんなに苦くマズいものを毎日美味しそうに飲んでいたのか…と。

「どう思う？」

プロ子は母親の喉の音が静まってから聞いた。

「アタは…どう思う？」

質問に質問で返されたプロ子は黙ってしまった。



「別に意地悪してる訳じゃないよ？ アタが今、何を感じていて、何を思っているかを知らたいだけ」

「私は…正直、夢なんてないけど、一人で誰にも干渉されない暮らしを続けていきたいし、そのためには働かなくちゃいけないし、そこにはやはり甲斐とかあった方がいいとは思わう」

「私はビール。アタは何？」

「え？ どういう意味？」

「生き甲斐よ、生き甲斐。何をしてる時に幸せを感じる？」

「うん…まあ、お風呂に入ってる時は幸せかな」

「それでいいじゃん。お風呂に入る時に、どうやって気持ちよく入れるか。そのためにどう一日を費やして、一日汗を流して、気持ちよく『今日わたし頑張った！』って湯船につかれるか。それだけ考えたらいいじゃん。私はそれがビールなだけ」

（つづく）

